

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

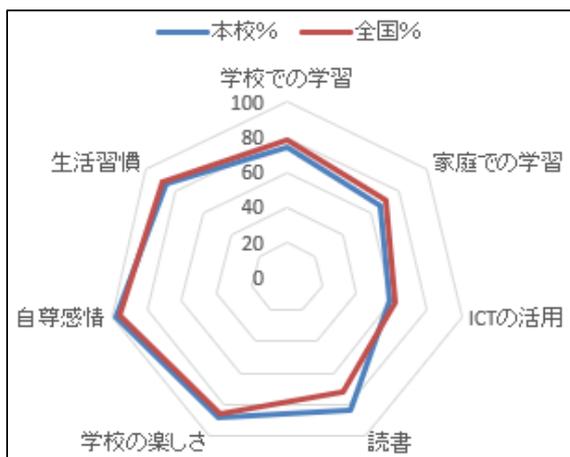
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	○「文章の特徴の説明を正しく選ぶ」問題や「書かれている内容について正しいものを選ぶ」問題については、全国平均、本県平均を上回った。 ○「情報をもとに考えをまとめる」「敬語を正しく使って話す」の問題「送り仮名に注意して正しく漢字を使う」の問題も、平均正答率が全国平均、本県平均を下回った。	全体的な平均正答率は、全国平均、本県平均と、ほぼ同じである。
算数	○記述式の問題における無回答率が低いことから、児童が問題に粘り強く取り組んでいると言える。 ○特に「二つの三角形の面積の大小について分かることを選ぶ」「面積の大小比較を理由付けして回答する」「割合」「()を使った式やかけ算・たし算の混ざった式、小数のたし算・かけ算を使った式とその説明をする」の問題は、平均正答率が全国平均、本県平均を下回った。	全体的な平均正答率は、全国平均、本県平均より下回っている。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と回答している児童の割合が、昨年に続き全国平均、本県平均を上回っている。高い規範意識と人権感覚を養うことができています。
○「学校の授業時間以外に、1日当たり平日は1時間以上、土曜日や日曜日など休日に2時間以上勉強する」と答えた児童の割合が、全国平均、本県平均を上回っている。今後もより一層、学校で作成した「家庭学習スタンダード」を積極的に活用し、自主学習の習慣が定着するようにする。
○「読書が好き」への肯定的な回答をした割合が、全国平均、本県平均を上回っている。
○「5年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用した」と答えた児童の割合が、全国平均、本県平均

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○計算や漢字等の基礎的なスキルアップと、授業の中で理由を明らかにして自分の考えをまとめることができるように、「書くこと」「話し合うこと」の指導に、継続的に取り組む。

○本年度の研究テーマにある「授業におけるICTの効果的な活用」を今後も一層推進する。また、ドリルアプリの活用を積極的に推進するとともに、計算・漢字プリントや視写等に、朝自習(ぬきっこタイム)や宿題等で継続的に取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○学校で作成した家庭学習スタンダードに基づき、児童の自主学習の習慣が定着するようにする。学校、学級、学校通信やホームページで、保護者に家庭学習の啓発を行い、協力を得ていく。